神戸大学・北京外国語大学 日本語研究フォーラム 2024

BFSU/KU Japanese Linguistics Forum 2024

ごあいさつ

神戸大学石川研究室では、北京外国語大学日本学研究センターのご協力のもと、表記の研究会をオンラインで開催いたします。当日は、北京外国語大学大学院および神戸大学大学院で日本語学や日本語教育学を専攻している 10 名の大学院生が研究発表（中間発表を含む）を行います。また、北京外国語大学の陳冬姝先生によるご講演も予定しています。

ご多用中とは存じますが、ご関心のある皆様のご参観をお待ちしています。なお、この企画は、JSPS 科学研究費（23H00641）の援助を受けています。

— 記 —

日時：2024 年 6 月 29 日（土） 1020～1600

媒体：Zoom

参加方法：参加費無料。参加希望者は 6/20 までに申し込みサイトより申し込みのこと。申し込み多数の場合は先着順。 https://forms.office.com/r/QEVBBeWt2d

主催：神戸大学国際文化学研究科 石川慎一郎研究室

共催：北京外国語大学日本学研究センター 費暁東研究室・陳冬姝研究室

共催（後援）：神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート Promis

問い合わせ先：神戸大学石川慎一郎研究室 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 iskwshin@gmail.com

—プログラム—

1020 開会のことば 石川慎一郎（神戸大）

==========

第 1 セッション

メインコメンテーター：石川慎一郎（神戸大） サブコメンテーター：費暁東（北京外国語大）

==========

1030-1045 陳墨林（北京外国語大院 M）

職場における活用語命令形の使用傾向－CEJC を用いて

■キーワード：CEJC、命令形表現、発話行為論、語用論、職場会話

■要旨：「話し手が聞き手に対して、未実現の事態を成立させるように促す」ことを通常「行為要求」の発話行為と呼ばれている。このような発話行為を実現することには、典型的に本動詞･補助動詞･助動詞の命令形によるものがある。本発表には、 日本語日常会話コーパス（CEJC）を用いて、職場における活用語命令形の使用傾向を明らかにしたい。

1045-1100 陳迪（神戸大院 D）

「継続する支援」「継続の必要性」「継続的（な）成長」—漢語動名詞の連体節内使用時の後接要素の種類の選択要因を探る—

■キーワード：漢語動名詞、連体修飾後接要素、コーパス、重回帰分析、日本語教育

■要旨：漢語動名詞が連体節内で使用される際、後接要素には動詞型（スル）、名詞型（ノ）、形容詞型（的・的ナ・ナ）などの 3 種類がある。これらの典型性を確認した後、重回帰分析により、各種の後接要素の選択を促す言語的要因を調査した。その結果、漢語動名詞の使用環境・品詞性・意味範疇・時代などの要因が影響を及ぼすことが明かになった。得られた知見は、言語学だけではなく、日本語教育にも応用が可能だと思われる。

1100-1115 楊子琛（北京外国語大院 M）

「X は X で P」から「X ば X（た）で P」へ —日本語におけるトートロジーに関する一考察—

■キーワード：「X は X で P」「X ば X（た）で P」 トートロジー 構文文法

■要旨：文的トートロジー「X は X だ」は用法が複雑な様相を呈しているため、カテゴリー化や語用論の立場からいろいろと検討されてきたが、文の主題部に生起するトートロジー「X は X で P」と、それと形式面で類似したトートロジー「X ば X（た）で P」を対象とする研究は十分に行われていない。本研究は二つのトートロジーを、「で」の品詞、取り立て機能、意味・用法の予測不可能性という点から考察した上、構文として認定した。また、前者の異質化用法と後者の同質化用法の関連性を考慮に入れて、両構文の新しい記述を提案してみた。

1115-1130　魏婧云（神戸大院 M）

中国語母語の日本語学習者による「A(っ)Bり」型オノマトペの使用実態―日本語母語話者との比較から―

■キーワード：「A(っ)B り」型オノマトペ、I-JAS、日本語教育

■要旨：日本語オノマトペは構造が複雑で、語形も多様であり、非母語話者による習得には困難も予想される。本研究では、各種のオノマトペ形態のうち、ABAB 型に次いで頻度が高く、かつ、中国語に同様の形態が存在しない「A(っ) B り」型オノマトペに注目する。「多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）」の対話課題のデータを用いて、中国語母語の日本語学習者(CLJ)と日本語母語話者(JNS)による「A(っ) B り」型オノマトペ（上位 50 種）の使用実態を調査したところ、両者の間に様々な差があることが確認された。たとえば、使用量は JNS の 2.14 回に対して CLJ は 0.54 回にとどまっている（p=.04）。本研究では、このほか、「A(っ) B り」型オノマトペの後続要素などについても比較を行った。本研究で得られた結果は、CLJ を対象とする日本語オノマトペ指導を考える際の基礎資料になりうると思われる。

1130-1145 楊言飛（北京外国語大院 M）

中国語と日本語における婚姻のメタファーの対照研究

■キーワード：概念メタファー、コーパス、対照研究、婚姻、認知

■要旨：本研究は、中国語と日本語における婚姻に関するメタファーを対照的に分析することを目的としている。認知メタファー理論に基づいて、コーパスを利用して、両言語における婚姻に関するメタファー表現の違いと共通点を明らかにしたい。本研究は、文化的背景がメタファーにどのように影響するかを示し、異文化間コミュニケーションの理解を深める一助となることを期待している。

1145-1205　第 1 部ディスカッション

（昼食休憩）

==========

第 2 セッション

メインコメンテーター：費暁東（北京外国語大） サブコメンテーター：石川慎一郎（神戸大）

==========

1300-1315 牟虹妮（神戸大院 M）

中国語母語の日本語学習者による「と+動詞」の使用実態—JNS /CLJ 差に注目してー

■キーワード：と+動詞、I-JAS、日本語教育

■要旨：本研究では、I-JAS の全データを用い、日本語母語話者（JNS）と中国語母語の日本語学習者（CLJ）による「と+動詞」表現の使用実態を調査した。 まず、全体頻度について言うと、JNS の平均使用量は 48.72 回、CLJ の平均使用量は 21.04 回で、CLJ の過少使用が確認された（p<.001）。研究では、あわせて、 「と」の機能別頻度調査や、用例の分類などを試みた。本研究で得られた結果は、CLJ を対象とする日本語教育における助詞指導の改善に一定のヒントになると思われる。

1315-1330 林暁雯（北京外国語大院 M）

敬語研究の現状と今後の課題の日中比較——計量テキストの分析による一考察

■キーワード：敬語研究、日中比較、KH-Coder、頻出語彙、語彙共起

■要旨：「中国知網（CNKI）」と「日本語研究・日本語教育文献データベース」における今までの中国と日本の敬語についての研究データを収集し整理した。文献発表数によって段階を分けて、KHcoder3 を使って段階ごとに頻出語を抽出し、共起ネットワークを構築した。それから中国と日本における敬語研究の現状と最も話題になっていたテーマを比較してみた。研究意義としては、今後の敬語の研究の方向性を示すことを望むことである。

1330-1345 陳俊彬（北京外国語大院／神戸大院 M）

話し言葉における中国人日本語学習者によるアスペクト標識「ている」の使用実態 —I-JAS と B-JAS の統合分析の視点からー

■キーワード：話し言葉 アスペクト標識 ている 使用実態

■要旨：「ている」はアスペクト標識の一つとして多様で複雑な用法を持っている。「ている」は初級段階から導入される文法項目であるにもかかわらず、初級・中級レベルの学習者だけでなく、上級学習者の使用にも問題が散見される。「ている」の研究はすでに広くなされているが、多くは横断データを用いたもので、かつ、書き言葉の分析が中心であった。そこで、本研究は、横断データと縦断データを統合解析するという新しい方針のもと、話し言葉における中国語母語の日本語学習者（CLJ）による「ている」の使用を分析した。その結果、(1) CLJ が使用する「V+ている」のタイプ数とトークン数はともに学年進行につれて線形的に増加すること、(2) 4年目の時点でタイプ数は母語話者（JNS）に近接すること、(3) トークン数は JNS に届かないこと、などが明らかになった。これらの知見をふまえ、今後は、学習者の「ている」習得プロセスのモデル化を試みる予定である。

1345-1400 陳妙清（北京外国語大院 M）

中国高校における日本語派遣教師のアイデンティティ構築のマルチケーススタディ

■キーワード：高校日本語派遣教師、アイデンティティ構築、マルチケーススタディ、教師研修

■要旨：中国では、高校日本語科目の常勤教師の人数不足に因んで会社派遣の形で採用された教師が増加している。しかし、これまで日本語派遣教師を対象とするアイデンティティ研究がまだ不十分である。そこで、本研究はナラティブ手法を用いて中国高校日本語派遣教師のアイデンティティ構築の現状、形成過程及びその影響要因を考察する。研究意義としては、今後の中等教育段階における日本語教師育成及び教師研修に示唆することを望むことである。

1400-1415 廉沢奇（神戸大院 D）

日本語オノマトペの形態パタンと具現形は何種類存在するのか？－BCCWJ および CEJC データを用いた網羅的分析－

■キーワード：オノマトペ、形態、BCCWJ、CEJC

■要旨：オノマトペは日本語において重要な役割を果たしているとされるが、その形態パターン（ABAB、A っ B り、など）が何種あるのか、また、実際の具現形がいくつあるのかという点に関して、先行研究の見解は一致していなかった。そこで本研究では、既存のオノマトペリストから 68 種の形態パターンを抽出した上で、パターンマッチングの手法によって BCCWJ と CEJC に含まれる全データを調査し、実際に出現するパタンの数、および、それらに合致する具現形の数を特定した。その結果、現代日本語の一般的な書き言葉・話し言葉に出現するオノマトペの形態パタンは 58 種で、具現形は約 2200 語であることが明らかになった。今回の調査で明らかになったオノマトペの形態パタンおよび具現形のリストは、今後のオノマトペ研究の基礎資料になるものと考えられる。

1415-1435　第 2 部ディスカッション

（10 分休憩）

==========

第 3 セッション（講演）

司会・コメンテーター　費暁東（北京外国語大）

==========

1445-1520 講演 1（30 分+5 分質疑）

演題：日本語学習者コーパスに基づく第2言語習得研究の可能性と留意点

講師：石川慎一郎氏（神戸大教授）

要旨：2020年に公開された「多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）」は、習得研究に不可欠な資料として、広く使われるようになっている。ただし、コーパス言語学の観点で見た場合、I-JAS のデータを適切に使用し、説得力のある結論を導き出すことは必ずしも容易ではない。本講演では、(1)習熟度統制、(2)サンプル数問題、(3)横断・縦断データ統合、(4)参照基準多元化、(5)統計処理、といった点に注目して、今後のコーパス準拠型第2言語習得研究のあり方を考える。

1520-1555 講演 2（30 分+5 分質疑）

演題：日本語の外交ディスコースの協調性と対立性

講師：陳冬姝氏（北京外国語大講師）

要旨：外交ディスコース（Diplomatic Discourse）とは、外交官がある時期の外交政策や国家戦略を表現するために使用した言語のことである。近年、英語や中国語などの外交ディスコースの言語的特徴を分析した研究が盛んに行われているが、日本語の外交ディスコースにはどのような特徴があるのかについてはほとんど注目されていなかった。本発表は日本外務大臣や報道官の記者会見の記録を対象に、外交官が協調・賛同・褒賛などを表す言葉と、対立・反対・非難などを表す言葉を分け、日本語の外交ディスコースの協調性と対立性を解明する。

1555-1600 閉会のことば　費暁東（北京外国語大）

神戸大学・北京外国語大学 日本語研究フォーラム 2024
BFSU/KU Japanese Linguistics Forum 2024
(2024 年 6 月 29 日)

講師・コメンテーター略歴 (中国の先生のお名前は日本読みで記載させていただいています)

陳冬姝(ちん・とうしゅ)

北京外国語大学講師
四川大学外国語学部卒業。大阪大学大学院言語文化研究科修了。博士(日本語・日本文化)。専門は日本語学、日中対照言語学、コーパス言語学。近著に『話し言葉における受身表現の日中対照研究』(ひつじ書房、2023)。

費暁東(ひ・ぎょうとう)

北京外国語大学副教授
広島大学大学院教育学研究科修了。博士(教育学)。専門は日本語教育学、第二言語習得、認知心理学。近刊論文として「基于 NIRS 证据的日语语块加工机制研究[J],外语教学与研究,2021 (1),CSSCI」ほか多数。

石川慎一郎(いしかわ・しんいちろう)

神戸大学教授
神戸大学文学部卒業。神戸大学大学院文学研究科、岡山大学大学院文化科学研究科修了。博士(文学)。専門はコーパス言語学、応用言語学。現在、計量国語学会副会長、文化庁文化審議会国語分科会委員。近著に『ベーシックコーパス言語学(2 版改訂版)』(ひつじ書房、2023)ほか。